

# 郡山市環境審議会 会議録

会 議 名 令和4年度第1回郡山市環境審議会（書面審議）

日 時 令和4年9月27日（火）から令和4年10月6日（木）まで

出 席 者 難波謙二会長、會田久仁子副会長、市岡綾子委員、太田弘志委員、  
菅野千恵子委員、小林裕子委員、五味馨委員、佐久間裕委員、  
高橋敦司委員、橋本健委員、平川真理子委員、古谷博秀委員、  
堀井潔委員、松枝智之委員、湯浅大郎委員（15名）

欠 席 者 （0名）

## 議 案

議案第1号 郡山市第三次環境基本計画年次報告について（意見聴取）

## 資 料

議案第1号関係

- ・資料1 郡山市第三次環境基本計画報告について ……審議資料
- ・資料2 郡山市第三次環境基本計画及び郡山市の環境の掲載先URL ……参考資料

## 会議内容

### 1 開 会

令和4年度第1回郡山市環境審議会は「郡山市環境審議会書面審議実施要綱」に基づき、書面審議により開催した。

委員15名のうち、出席者は15名であり、郡山市環境審議会条例第5条第2項に規定する、委員の過半数の出席があるため、この審議会は成立している。

### 2 議 事

郡山市第三次環境基本計画報告について

意見あり11人 意見なし4人

#### ○ 委員からの意見

難波謙二会長

1-2 郡山市役所から出るごみのみから算出していた排出量を、市内クリーンセンターで処理されるごみ全体量から排出される温室効果ガス排出量を指標としたとあります。この変更は市の事業に伴って排出される温室効果ガスを把握するとの観点で、適切な変更と思います。一方、全体に対してどの程度の割合がクリーンセンターからの発生が占めるのか、別紙1でどこに該当するのかなど読み取れるのでしょうか。

1-4 「省エネルギー・再生可能エネルギー施設導入」という環境指標ですが、評価結果と今後の取組ではLED化（省エネ）の記述のみで、再エネ導入についての評価や今後の取組についての記述がありません。

2-1 展開検査による分析などにも関わらず一人あたり排出量が減少しないのは残念です。分別や3R等をどのような手法で徹底・推進するのか具体策が欲しいです。

會田久仁子副会長

○取り組みの柱1～5

それぞれの項目において、目標達成の可能性が高い ○評価を、多く得られたことはよかった。

「資源が循環するまちづくり」では下位項目の2項目ともが×評価となり、目標達成の可能性が低いとされたことは残念である。市民ひとりひとりが、自分のこととして取組まなければ評価をあげることは難しく、ごみ排出量20%削減目標はなかなか難しそうだと感じた。

ここ2年半、世界はコロナ禍となり、巣ごもりと言われた時を過ごしてきた。多くのものの家庭での消費が増え、家庭ごみは減る機会を逃したようにも感じる。特に清潔を保つための紙類の消費が格段に増えた実感がある。分別の意識を持たせる工夫を考えなければいけないように思われる。

他との接触をできるだけ回避してきたこの2年半、ごみ排出量、再生利用への取組で期待以上の結果を出すのは困難であったと思われる。

○取り組みの柱4にもあるように

「市民が健康で安心して暮らせるまちづくり」これが何と云っても一番であるので、この実現・維持に向けて進めて参りましょう。

市岡綾子委員

議案に対し、特に異議はございません。

取り組みの柱2「資源が循環するまちづくり」では、2つとも「目標達成の可能性が低」との評価であり、コロナ禍も影響して集団資源回収が実施されなかったこともあるものの、市民に3Rを浸透させる取組が重要と思われる。

太田弘志委員

異議ありません。

菅野千恵子委員

特にございません

小林裕子委員

評価の低い項目も多数の要因を分析継続で×から△、○へと改善の余地充分にあると思います。目標達成に向けて前向きで良いと思います。

この方向で賛成です。

五味馨委員

1-①温室効果ガスの排出量・

・ほぼ目標を達成していることは喜ばしい。気候変動対策総合戦略のもとでも進展を期待する。

・人口減少にも関わらず運輸部門の排出量が増えた要因は何か。世帯当たりの自動車台数の増加、走行距離の延長などが考えうるが（燃費が悪化する要因は考えづら

いように思われる)、今後の対策を進める上で重要であるので報告して頂きたい。

#### 1-②市の事務及び事業による温室効果ガス排出量

- ・着実な削減が進んでいることを評価する
- ・減少の主な要因は何か。例えば設備の更新によるエネルギー効率の向上、各職員による省エネルギーの取組、再生可能エネルギーの導入、電力調達の契約先の変更、そもそもの事業内容の変化などが想定しうるが、特に効果を挙げた取組が分かれば報告して頂きたい。

#### 1-③電力消費量に占める再生可能エネルギーの割合

- ・都市部である郡山市で 33%まで到達していることは大変よいことである
- ・太陽光発電および電力消費量の増減について、値 (kwh) に加えて基準年度に対する増減率 (%) も添えて頂ければ理解が容易である。

#### 2-①1人1日当たりのごみ排出量

#### 2-②再生利用率

- ・排出量は震災後に比較的高い水準での下げ止まりが長く課題となっているものと承知している
- ・これまでの取組が期待された効果を発揮してこなかったのは事実であるから、これまでと異なる方策での 3R 推進が必要ではないか。

佐久間裕委員

(意見なし)

高橋敦司委員

ごみの排出量と再生利用率については、行政がどんなに努力しても、市民に「自分ごと」と捉えてもらわない限り達成は難しい。

ごみ袋の有料化などを含め、あらゆる対策を検討していくことで、市民にも理解を求めていくことが必要だと思います。

橋本健委員

年次報告の取り組みの柱 1 の温室効果ガス排出量の件ですが、別紙 1 部門別運輸部門について残念ながら基準年度比 13.7% 増となっております。

業界に携わる者として残念であり、環境に取組んだ車両を提供していると考えておりますが、内容を精査して対策を一緒に取組んでいきたいと考えます。

ごみの問題ですが、家庭内での分別はかなり細かく指示されていることは私自身も感ずるところです。しかしながら、事業所の処理を見るとまだまだのように感じます。

家庭、事業所問わず取組をお願い致します。

平川真理子委員

(意見なし)

古谷博秀委員

第三次計画での、取り組みの柱の 1, 4, 5 については、おおむね目標値を達成するか、近い値となっており、これまでの努力の成果だと思います。取り組みの柱の 2 については、コロナの影響もあり、難しい点、理解ができます。取り組みの柱の 3 については、間伐実施面積については、二酸化炭素の吸収にもつながる重要な項目ですの

で、予算の課題はあるかと思いますが、是非、さらに進めていただけますとよろしいかと存じます。

堀井潔委員

取り組みの柱2 資源が循環するまちづくりについて  
〈ごみ排出量の削減、再生利用率の向上に向けて〉

- ① 人口に比してごみ処理場の能力が低い市町村は、ごみ排出量が少ない傾向がある。これは、ごみ排出量を削減せざるを得ないという制約下で、できる対策を順次行って来た結果である。2019年における郡山市民一人一日当たりのごみ排出量は、中核市（62市）中のワースト3にランクされている。その意味で、郡山市はごみ処理について余裕があるという証拠ではないかと推察される。また、市民が担うべきごみ収集上の役割を郡山市が肩代わりしている面もあるのではないかとと思われる。
- ② 私が以前住んでいた所では、ごみ袋は多種類化・有料化しており、資源物はビンの色毎・段ボールの紙質別・新聞紙とチラシ・缶の資材別の分別があたりまえのように行われていた。このようなごみ処理を毎回行うことにより、市民のごみに対する意識が無意識の内に向上して、次第にごみ排出量が少なくなり、再生利用率も向上することは、他市町村で実証されている。
- ③ 市民に向けた種々の活動も必要ではあるが、まずは、ごみ排出量の削減や再生利用率の向上のためには、ごみ袋の多様化（袋の大小も）・有料化や資源物の分別用かごの整備を早急に開始する必要がある。
- ④ 多くのごみ集積場の管理は地縁団体である町内会が行っているが、管理を担う町内会役員の高齢化や町内会に加入しない非会員の増加によって、ごみ集積場の管理レベルが大幅に低下している現状に対する改善策を議論して実行していく必要がある。

松枝智之委員

取り組みの柱2 「資源が循環するまちづくり」

No. 2-①

所管課 3R推進課

環境指標 1人1日当たりのごみ排出量

郡山市の住民基本台帳統計によると、18歳人口が3,000人を割り込み、なおかつ、0-4歳人口が1,000人を割り込み、なおかつ、女兒の人口が予想以上に減少しており、人口減少とりわけ、少子化、少母化が著しく激変している。

人口が高齢化すること、コロナ禍における家飲みが増えたこと等による、ごみの排出量および、排出品目の種別の変化が見られる。

一般廃棄処理統計の計算上、「ごみの排出量÷人口＝1人1日当たりのごみ排出量」であるため、分子である排出量が増え、分母である人口が減れば、解である1人1日当たりのごみ排出量は上昇するのは明らかで、分母対策である人口政策とごみの減量化を講じないと、1人1日当たりのごみ排出量が、目標年度に達成ができないのではないかと。

さらなる分別の徹底や3Rの推進等、手法等の見直しが必要になるのではないかと  
湯浅大郎委員

(1) 議案第1号

実績値の評価と、実績に影響したと思われる要因の分析は、おおむね適切に行われていると思いますが、以下の点について、さらなる取組の強化が必要と考えます。

1-①「温室効果ガス排出量」については、審議資料にある通り「達成率98%と目標値に近い数値となっております」ですが、CO2排出量は2018年度実績値の2,861千tに対し2019年度は2,871千tと1万t増加しています。これを誤差の範囲などと軽視することなく、特に運輸部門に関する重点的対策を講じ促進していくことが重要であると考えます。個人的には、次世代自動車の導入等以上に、Amazonやメルカリ等を利用した個人消費にともなう配送の過当競争・過剰サービスを（国を挙げて）抑制していくことが必要であると思います。

取り組みの柱2「資源が循環するまちづくり」についての達成度がきわめて低いことを、本市の大きな課題として重く受け止めるべきです。福島県の1人1日あたりのごみ排出量は全国でもワーストクラスで中央値の920g台と大きく乖離しているにもかかわらず、2-①「1人1日あたりのごみ排出量」が昨年よりも増加している現実を広く発信し、市民意識の啓蒙を図りながら生活様式の見直し、ごみの分別・回収方法の見直し（有料化も含め）等について議論を深めていくことが必要であると考えます。2-②「再生利用率」についても、行政や町内会による資源回収の機会が減少しているのであれば、それに替わる手立てとして何が行えるのか（資源ごみを集積所に持参するとエコポイントが貯まるヨークベニマルの取組は、一つのモデルであると思います）、本気で考えるべきです。

最後に、実績値を評価する手法については、「前年よりも増えた、減った」という経年変化よりも、郡山市の実情が都市規模や産業構造の近い他市や、全国の自治体の平均値・中央値と比べてどうなのかという「ベンチマーク」をもっと行うべきであると考えます。目標値を設定する際にはある程度ベンチマークデータも参考にされているのだと思いますが、毎年、実績を評価し年次報告をまとめる際にも、たとえば、ごみ排出量については全国で最も少ない長野県の数値との差はどこから生じているのか、踏み込んだ分析を行うことが次なる対策につながっていくのではないのでしょうか。